なかふらの 議会だより

令和７年１１月５日
発行 / 中富良野町議会
編集 / 議会広報発行特別委員会

明日のために

［表紙］中富良野混声合唱団 コール・フローラの皆さん

第９回定例会開催

令和７年９月１７日～１９日

第 179 号

今回の表紙	2
町政に関する一般質問	3～7
議員研修レポート	8～9
総務社会常任委員から	10

今回の表紙

中富良野混声合唱団 コール・フローラの皆さんです。

中富良野混声合唱団 コール・フローラとは

明治（1895）28年、本町に開拓の鍬がおろされてから今年で130年を迎えます。

振り返りますと、平成（1995）7年7月7日、開基100周年記念式典において公募の一般町民、中学生の皆さん合わせて160名の大合唱団が結成され、1年間の練習を経て式典に参加し、歌うことができました。これが母体となり、同年に中富良野混声合唱団コール・フローラが誕生しました。

関係機関の皆さま、そして町民皆さま方のご支援とご協力のお陰で、合唱団は結成30周年を迎えることができました。

練習風景（なかまーる）

静岡県三島市でのジョイントコンサート（昨年）

コール・フローラの活動

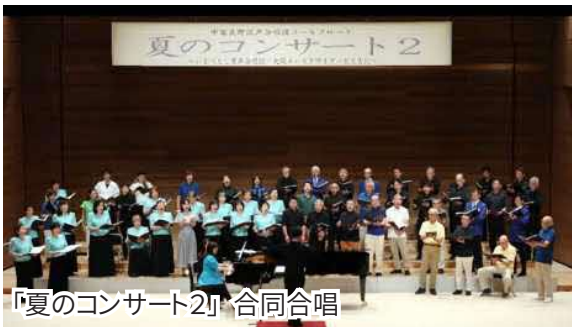
コロナ禍で思いっ切り歌えず辛かった4年間でしたが本来の活動に戻り、現在は団員21名で菅美穂先生、但木愛華さんのピアノ伴奏のもと毎週火曜日、午後7時から楽しく練習をしています。また、町民文化祭、芸能発表への出演や福祉施設訪問、自主企画コンサートの開催等を行っています。

本年7月には以前から交流がある「いそべとし男声合唱団」（東京）、「大阪メールクワィアー」（大阪）の皆さんとのジョイントコンサート「夏のコンサート2」を開催しました。また、令和8年6月21日（日）には「創立30周年記念コンサート」を改修工事が終わり新しくなった改善センターで行います。

只今団員募集中です。歌うことが好きな方、ハモルことに興味のある方、一緒に歌いませんか！年齢、性別は問いません、何時でもお待ちしています。

【団長 北嶋吉幸さん記】

「夏のコンサート2」熱唱中



「夏のコンサート2」合同合唱

［聞き手］村山友希 議員

第９回　定例会

令和７年第９回定例会は、９月１７日から１９日までの３日間開催されました。

町長から提出された補正予算案５件・条例案等６件、報告１０件、議員提案の意見書案１件が上程され、決算審査特別委員会に付託された認定８件を除くすべての議案を原案のとおり可決・決定とし、閉会しました。

最終日は６人の議員が町政について一般質問を行い、町長に答弁を求めました。

町政に関する一般質問

佐藤 和三 議員　4ページ

〇こども誰でも通園制度について

〇住宅リフォーム促進事業補助金について

市山　翔 議員　5ページ

〇役場庁舎及び公共施設の環境改善について

岡本 伸一 議員　5ページ

〇ゼロカーボンシティなかふらのについて

安藤 啓太 議員　6ページ

〇商工業の後継者について

前野 仁志 議員　6ページ

〇無縁仏供養塔・合同墓の建立について

寺岡 祐子 議員　7ページ

〇町内各集会施設への冷房設備設置について及びエアコン設置補助増額について

〇こども計画策定について

議会をもっと身近に
議会を傍聴してみませんか

定例会は３・６・９・12月の年4回、臨時会は必要に応じて開会します。

団体で傍聴される場合は、事前に議会事務局（☎44-3985）へご連絡ください。

こども誰でも通園制度について

佐藤議員

○佐藤議員

こども未来戦略において、こども誰でも通園制度の創設がうたわれ、全てのこどもの育ちを応援し、こどもの良質な生育環境を整備するとともに、全ての子育て家庭に対して、多様な働き方やライフスタイルにかかわらない形での支援を強化するため、現行の幼児教育給付に加え、月に一定時間までの利用可能枠の中で、就労要件を問わず、時間単位等で柔軟に利用できる新たな通園給付を創設すると説明されています。来年４月から開始される、こども誰でも通園制度に対して、わが町としてどのように準備し、取り進めようと考えているのか。

●小松田町長

現在、令和８年度の実施に向け町内の保育事業所と受入れ体制について協議し、受入れに向けた運営基準について確認を行っています。質問議員も述べているように、全てのこどもの育ちを応援する事業として進めるとともに、受入れ保育事業所の不安解消に努めていきます。今後、より具体的なガイドラインが示される予定で、令和８年度の実施に向け、円滑な事業運営の確保に努めます。

住宅リフォーム促進事業補助金について

佐藤議員

○佐藤議員

建築費等が高騰し、リフォーム費用についても高くなっているので、事業を継続してほしい。また、事業内容について事業開始から15年目になることから見直してほしい。

①住宅を新築された方への100万円については、開始から30年にもなります。新築時に補助金をもらった住宅についてもリフォーム促進事業の対象にしてほしい。

②中富良野町の事業者でリフォームの仕事ができる業者については、優遇措置をしてほしい。

③この事業も15年目に入っています。補助金を使い切った人に対して追加枠を設けてほしい。

●小松田町長

町事業を継続してほしいとのことですが、これまでの実績を踏まえ、新定住応援促進事業等との整合性を図りながら、補助対象者、補助対象工事、補助率及び限度額等については、まちづくり策定委員会のご意見をいただきながら、継続に向けた検討を進めていきます。

一般質問

役場庁舎及び公共施設の環境改善について

市山議員

○市山議員
近年は猛暑が北海道でも常態化し、町民から「暑くて役場に行きたくない」との声が上がっている。役場庁舎及び消防施設、なかまーる、こぶし苑など、公共施設の利用者の健康・安全、また職員の業務効率の向上も目的に、空調設備を早期に整備すべき。特に役場窓口や消防事務所など日常利用が多く安全に直結する箇所を優先するなど段階的に整備を進めてほしい。また、導入に当たり補助金や脱炭素化推進事業債などを活用してはどうか。

●小松田町長
エアコンの導入については現時点で進んでいない状況ですが、町民の利用が多い役場や公共施設への導入を令和8年度以降に向けて検討していきます。役場庁舎などの古い施設は改修に専門的な知見なども必要となりますが、町民の利便性等も考慮しスピード感を持って進めたいと考えています。補助金については空調設備が対象となる脱炭素化推進事業債や財源充当率の高い過疎債等を活用しながら進めたいと考えています。

改善センター内部改修工事状況（エアコン等設置）

ゼロカーボンシティなかふらのについて

岡本議員

○岡本議員
中富良野町は2022年6月に、ゼロカーボンシティなかふらのを宣言しました。中富良野町地球温暖化対策実行計画、区域施策編では2030年までに二酸化炭素排出量を46％削減することとなっています。現在、どの程度二酸化炭素排出量を削減しているのか。また、産業部門などへ向けた補助金などの施策はどのように考えているのか。

●小松田町長
削減状況は令和9年度に集計等は実施予定としているため、現時点で削減率は集計していません。農業分野ではスマート農業導入緊急対策支援事業を実施しており、作業効率化等により、二酸化炭素排出量削減が図られています。今後、取組を産業全体に拡大する観点から、各関係機関と協議を継続していきます。

○再質問
ゼロカーボンアクションに掲載されている表などは分かりやすく、効果を促すのに効果的。さらに取組を進めるべく町民、町外に向けたPRはどのようにとらえているのか。また、ゼロカーボンへの取組が町民には身近に、町外の人には魅力的に映るようにしてほしい。

●答弁
町内外にアピールすることはとても大切です。それが企業に対してのPRにもなりますので、意見をいただきながら進めていきたいと考えています。

商工業の後継者について

安藤議員

○安藤議員

①若者や新規事業者を対象とした後継者プログラムは考えているのか。また、地域おこし協力隊を利用した育成は考えているのか。

②現在の商工事業者向け補助事業の効果は。

③町としてどのような部分を重要視して商工業を発展させていくべきと考えているのか。

④商工会と共同での後継者問題に取り組む考えはあるのか。

●小松田町長

①産業担い手サポート事業の実施や地域おこし協力隊については既に農業・酪農業の取組を進めています。また、商工業についても周知をしています。

②商工観光みらい応援事業では令和元年度から6年度まで78件の採択中、11件が新規事業者です。また、チャレンジショップ支援事業の実績は3件あり、効果があると考えています。

③観光を1つの重要なキーワードと位置付けて商工業の振興を図りたいと考えています。

④検討を進めます。

○再質問

地域おこし協力隊へ商工業向けの周知はどのように行っているのか。また、地域内消費が重要と考えるが、入れ替わり可能なチャレンジショップなどはできないのか。

●答弁

商工会を通じて周知していますが、今後はより広くニーズを確認していきたいと考えています。また、新規出店者などについては地域内消費を含めて駅前観光拠点施設にテナントの募集やキッチンカー等を考えています。

無縁仏供養塔・合同墓の建立について

前野議員

○前野議員

お墓参りにいくと、かつて墓石が建立されていた区画の更地が増えている。お墓は「家族代々受け継ぐもの」とされていたが近年は価値観が多様化し、お墓を守る家族が近隣にいないなどの状況が増えていくと懸念されている。無縁仏供養塔と合同墓の建立の進捗状況や計画はどうなっているのか。

●小松田町長

第6期まちづくり計画の令和8年から10年度の期間で墓地施設整備事業として合同墓の整備を計画しています。無縁仏供養塔についても老朽化対策が必要ですので合同墓の整備計画と合わせて、今後の管理も含めた対応を検討していきます。

○再質問

3年前の一般質問では、先に老朽化した無縁仏供養塔の協議を進め、その後に合同墓の建立を令和11年度に予定と答弁があった。過去10年間で無縁仏供養塔に納骨された遺骨は何柱か。人生の最後を本町で迎えたいという声を尊重するためにも合同墓の建立を急ぐべきではないか。

●答弁

過去10年間で無縁仏供養塔に納骨された遺骨は1柱となっています。当初、まちづくり計画では令和11年度に整備を計画していましたが、令和6年度に計画を1年前倒ししました。様々な関係者の方たちのご意見等も踏まえながら、合同墓と無縁仏供養塔はなるべく同じ時期に進めていきたいと考えています。

一般質問

町内各集会施設への冷房設備設置について及びエアコン設置補助増額について

寺岡議員

○寺岡議員
今後の町内各集会施設の冷房設備設置及び住宅のエアコン設置補助増額について、町としてどのように考えているのか？

●小松田町長
集会施設の冷房設備については令和８年度以降の設置を検討していきます。住宅のエアコン設置補助金については令和７年度のみの道の補助金を活用しているが、町で３年間は今年度と同じ形で継続したいと考えています。その後については非課税世帯等も含めて検討していきます。

住まいのゼロカーボン化推進事業 HP
【二次元コード】

生活基盤・移住・定住　～さらなる発展への生活環境をつくるまち～

（６１）住まいのゼロカーボン化推進事業（省エネ設備等）補助金

【担当部署】総務課ゼロカーボン推進係 【電話番号】0167-44-2122	【窓口の場所】役場庁舎　２階

【ホームページアドレス】
https://www.town.nakafurano.lg.jp/hotnews/detail/00003001.html

【補助金の内容】
・既存住宅の省エネルギー化を行う方に補助する。《高効率給湯器》《エアコン》

【補助対象者】
・町内に居住する方、又は町内に居住する予定のある方

【補助金額】
《高効率給湯器》　本体購入額×１／３（上限額１５万円）
《エアコン》　本体購入額×１／３（上限額　５万円）
※対象製品等について、詳しくは町ホームページをご確認ください。

【実施期間】　令和７年度

【申請に必要なもの】
・交付申請書
・契約書の写し、及び内訳明細書
・設置機種のカタログ
・誓約書兼承諾書
（町外に居住している場合は、承諾書の代わりに現に住所を有する市町村が発行する過去３年分の住民税の納税証明書）
・その他、町長が必要と認める書類

【交付までの流れ】
①補助金交付申請⇒　②交付決定通知⇒　③着工・完成⇒　④完了報告⇒　⑤補助額決定通知⇒　⑥補助金の請求⇒　⑦補助金交付

【備考】

【令和7年度 中富良野町補助金ハンドブックから】

こども計画策定について

寺岡議員

○寺岡議員
こども基本法の趣旨に則ってあらゆる工夫をして、こども・若者が参画したといえる計画策定のプロセスを作ってほしい。町全体で「あなたたちの声を大事にしているんだよ」とこども達に伝えることも、大きな目的として、町として取り組んでほしい。

●小松田町長
こども・若者を対象としたアンケート調査を令和７年８月に実施し、現在集計を行っています。また対象者の意見聴取の場として小学５・６年生及び中学生を対象としたインタビュー実施に向け、学校と協議を行っています。また高校生から29歳までの若者を対象としたインタビューについては公募で参加者を募り、実施できるように準備を進めています。質問内容は簡素化し、説明をわかりやすく工夫するなど、こども・若者が安心して意見を述べられるよう配慮を行いながら実施していきます。

○こども基本法とは

・こどもに関する様々な取組を講ずるにあたっての共通の基盤として、こども施策の基本理念や基本となる事項を定めた包括的な基本法です。

・市町村は、こども大綱・都道府県こども計画を勘案して「市町村こども計画」を作成する努力義務があります。

・市町村こども計画の目的は、全てのこども・若者が身体的、精神的、社会的に幸福な生活を送ることができる社会の実現となっています。

こども家庭庁
こども基本法 HP
【二次元コード】

議会広報研修会

岡本伸一 議員

8月19日、ホテルポールスター札幌にて議会広報研修会が開催され、岡本、市山、寺岡、安藤と事務局の6名で参加した。

毎年この時期に開催される研修会で、今回“議会広報サポーター”である芳野正明（よしの　まさあき）氏を講師に「議会の『見える化』＆住民との『信頼を築く』議会広報の基本と編集」と題してご講演いただいた。

午後は議会広報クリニックとし、講義では住民の暮らしに関わる議会の活動状況を知らせ、政策・制度への関心を高め、議会が何をしているかを知ってもらう一つの大切なコンテンツとして、住民が議会とのつながりを実感していただくツールであることが議会広報の役割であると学んだ。

議会広報を「まず手に取っていただく」「紙面を開き読んでいただく」これらを住民に促し情報を共有するための工夫や企画を組織的に検討し編集などを行うことが『開かれた議会』『見える化』への重要なプロセスであると学び、広報誌の編集技術向上も必要であると感じた。

今後とも研修で学んだことを活かしながら、住民の皆さま方が手に取り読んでいただける議会広報誌を目指していきたい。

議会のうごき（令和７年８月～１０月）

■８月１９日　議会広報研修会
２６日　全員協議会
第８回町議会臨時会
合同常任委員会（土木調査）

■９月１０日　議会運営委員会
１７日　全員協議会
第９回町議会定例会①
義務教育学校運営・廃校利活用等検討調査特別委員会
議会活性化推進特別委員会
産業建設文教常任委員会
総務社会常任委員会
１９日　第９回町議会定例会②
全員協議会
議会広報発行特別委員会

■１０月１４日～１７日　総務社会常任委員会先進地行政視察研修
２０日　総務社会常任委員会
２１日　産業建設文教常任委員会
２８日　決算審査特別委員会①
２９日　決算審査特別委員会②
３０日　全員協議会
第１０回町議会臨時会
決算審査特別委員会③

議員研修レポート

ふらの圏域教育振興議員連盟主催教育研修会

安藤啓太 議員

9月30日、上富良野町公民館にて、ふらの圏域教育振興議員連盟主催の教育研修会に参加した。講演内容は「教育支援センターの役割」と題して上富良野町教育委員会の教育支援担当主幹の松田　剛（まつだたけし）氏より、不登校のこども達をどのように支援しているか、何を重要にしているかを学んできた。

不登校の多くのこども達は「学校に通いたい」と思う子がほとんどであるが、何かしらの理由で行けないことが多いとのこと。支援が必要な状態の境界線はどこにあるか、ということをよく聞かれるが、これはそれぞれ違い、大人の視点ではなくこどもの視点に立って初めて理解でき、一定の答えはなく親の押し付けのような支援や説得は良くないと考えさせられた。

目標設定については、こども達のできることから少しずつ拾い上げていくような支援や、興味をもって積極的に参加できる選択肢を増やしていくことが重要であると話されていた。

また、小学校・中学校とは細やかな打合せを実施しているため、学校の先生も気づかないことの共有が図れるようになり、教職員と親と支援機関での連携が取りやすくなっていることも良い点であるとされていた。

実際に不登校のこどもを抱え、支援センターを利用している親御さんのお話を聞き、1年半程かけて「こどものやりたい」を育て、自発的に「学校に行ってみようかな」と発言するほど変化してきたと説明があり感銘を受けた。

興味のある方は上富良野町公民館2階の教育支援センター「Mina Mina」に足を運び、話を伺ってみてほしい。

※ ふらの圏域教育振興議員連盟とは
ふらの圏域の市町村議会議員の有志で構成され、各自治体の教育に関する課題を共有し勉強会などを通じて、こども達の健全な育成に資することを目的とする団体です。

YouTube 配信しています

配信は町ホームページまたは下の二次元コードからご覧ください。

総務社会常任委員から

委員長
寺岡　祐子

「こども計画」はこれまで別々に行われてきたこども・若者に関する施策を一つにまとめ、町全体で進めていく為のもの。その根拠となる「こども基本法」は、日本国憲法や子どもの権利条約に基づき、全ての子どもが幸せに暮らせる社会を目指して制定された。今回の計画を策定する際には、こども・若者の意見を聴き、その声を尊重し反映することが大切にされている。こども達の声を遮ることなく丁寧に聴ける大人が少しでも増えますように。

副委員長
村山　友希

この社会総務常任委員会は「総務課、税務住民課、福祉課、会計課、町立診療所、こぶし苑関係の所管事務の調査を行い調査事項の実態を把握し、分析し検討して問題点を捉え、それを改善して改革するにはどのような措置を講ずればよいか、採るべき対策なり政策を究明し結論をだすこと」と、もう一つは「議会の予備的審査機関として、議案、請願等を審査すること」であります。任期中は実直に、積極的に意見を述べ、行動してまいります。

安東　義彦

明るく住みよいまちづくりを目指す中富良野町にとりまして、医療施設の充実は福祉の根幹をなすものといえます。町立病院がなかふらのクリニックに変わりました。町民の方々にとりましては無床診療所への転換になりましたが、健康診断はもちろん何かあっても今までとおり診てもらえることになり、無医村の町にならなくて良かったと思います。今後ますます高齢化社会に向かいます。なかふらのクリニックの利用を期待しています。

前野　仁志

４月の町議会議員選挙後、私は総務社会常任委員としてこれまでの経験、知見を町民に寄り添い精一杯働かせていただきます。総務社会常任委員の主な仕事は、各種税金の徴収や住民の要望に対応する税務住民、町民の健康を守る医療、生活者目線でサポートする福祉です。身体的に不自由になった方や高齢者の介護などの課題解決について小さな声にも耳を傾け、こどもからお年寄りまで「中富良野町に生まれて良かった、住んでいて良かった」と思えるまちづくりに汗をかいていく覚悟です。

冨樫　幹夫

２０２４年の小中高生の自殺数は５２９人と過去最多を記録しました。「ＳＯＳの出し方に関する教育」によって、こどもは以前に比べて声を出すようになったと思います。しかしＳＯＳを教職員や親、周りの大人達が必ずしも危険信号として受け止めていないのではないかと感じます。コロナ禍で分かったのは学校は教育だけではなく福祉の場であるということです。担任は教員でよいのですが副担任は福祉職や心理職を正規職員として配置すべきではないか。そうすることで学校という場を広い視点で見られるのではないかと思います。

［裏表紙］北星山から望む秋の風景